

## IGF 2021 KATOWICE REPORT SESSION

# ビジネス界から見た昨年度の IGF2021の状況

IGF2021報告会

2022年2月3日

横澤 誠

CFIEC/Business@OECD/ICC/NEDO/Keidanren...

# IGF2021の準備プロセスについてのビジネスからの観測

(以下ICC BASISでの議論をもとに作成)

## MAGメンバーの活発な議論

- 新規メンバーとしてBASIS（ICC）推薦により、CFIEC河内淳子が今後最大3年間の参加をすることになった。
- MAGの新チェアとして、元マイクロソフトのJames Wilsonが指名された
- COVID-19の世界的な大流行計画プロセスの開始が通常よりも遅れる原因となった。
- テーマ、イベント形式、新しいセッションの種類、準備段階での決定と伝達が予想以上に遅く、イベントの準備期間が大幅に短縮されてしまった。
- そのため、プログラムのいくつかの重要な要素、特に今年はハイブリッド形式のために斬新なアプローチが必要なものが最後まで残ってしまい（例：トラックの準備セッション、ブースの整理）、その結果、不確実性が高まり、効果が薄れてしまいました。
- また、年間を通じたコミュニケーションやイベント直前のアウトリーチ活動にも影響が出た。
- 参加希望者がトピック、計画プロセス、参加機会を認識し、貢献するための様々な機会について十分な情報を得られるよう、明確なタイムラインとガイドラインを用いて、計画プロセスを事前に伝える努力をすべきである。
- イベントや準備段階の期間、構造、フォーマットに関する決定は、理想的にはワークショップの応募段階に先立って伝えられ、関係者がそれに応じてセッションを計画、提案できるようにすべきである。
- IGF2021の包括的なテーマ（インターネット・ユナイテッド）は、現在の状況に適しており、グローバルなインターネット・ガバナンスの主要な問題に関する対話を含むように十分な幅を持っていたが、コミュニティの意見をほとんど聞かずに選ばれたため、ほとんどこのテーマフレーズは使用されなかった。

# (オープンフォーラムの抱える問題) ロジスティクス、遠隔参加管理の課題、Zoom爆弾による妨害 (ICC-BASISでのレビューをもとに再構成)

## IGF2021のロジ面評価

- IGFのYouTubeチャンネルでセッションのライブストリーミングを見ることができるようになったことで、参加者の議論へのアクセスと柔軟性が向上した。特にソーシャルメディア上での調整が必要。
- 今回のイベントでは、「ズームボミング」によって多くのセッションが中断され、主催者、登壇者、参加者のいずれにとっても、ネガティブで不安な経験となった。このような事態は、大規模なオンラインイベントのリスクとして知られているが、簡単なセキュリティ設定や手順（セッションのリンクを公開しない、ホスト側で参加者のオーディオ/ビデオをコントロールする、画面共有を制限する、会議のパスワードを設定するなど）で回避できる可能性がある。また、技術スタッフに特別なトレーニングを施すことで、少なくとも迅速にリスクを軽減することができる。
- 3D会場は非常に評価の高いアイデアだが、多くの参加者がその存在を知らなかったり、IGFのウェブサイトでリンクを見つけるのに苦労していた。ブース主催者は、バーチャルブースで何を期待されているのか、自分のブースがどのように見えるのか、ほとんど情報を持っていなかった。

## Zoom爆弾による妨害行為が頻発 (スクリーンショットは横澤の責任で出します)



# IGF2021での個別セッション評価 (ICC-BASISでのレビューをもとに再構成)

## ワークショップ

- テーマが設定後、提案と選考のプロセスはよく整理されていた。しかし、ワークショップ提案者は、フォーカスエリアとクロスカッピングエリアの違いを理解するのに苦労したようだった。ワークショップを開催決定や、講演者としての指名決定について知らなかったという人もいた。
- セッションによっては、グローバルな政策的な視点を持つ人と、現場で展開されるオペレーショナルな視点を持つ人を組み合わせることで、うまくいったものもあったが、ワークショップやその他のセッションの中には、登壇者のバランスや多様性に欠け、1つ以上のステークホルダー・グループが議論に全く参加していないものも数多くあった。

## 主要セッション

- 参加登録者数が110,000名を超え、過去最高の参加者数を記録した。登録者数が増えたことで、新たな参加者グループからの積極的な参加が増えたかどうかを知ることが必要。登録数だけでなく、個々のセッションに接続した参加者の参加状況を分析するために、さらなる統計が有用。
- 政府や企業の代表者の参加率は若干改善されたものの、これらのステークホルダーグループを今後のIGFに呼び込むための努力を継続する必要がある。
- IGFヴィレッジは、ネットワーキング、情報共有、発見の機会を提供する、対面式のIGF体験に不可欠な要素。
- メインセッションは、これまでとは異なる幅広いレベルの議論の場を提供し、これまで出席率が低かった政府や企業の構成員にもアピールすることができた。
- メインセッションがIGF2021テーマと連動していたのは良かったが、テーマの数が多かった。
- 1セッション2時間という時間は、議論を深め、聴衆の意見を取り入れながらも、セッションを通して参加者の関心を維持するのに適した時間であると考えられる。
- メインセッションとIGFインターセッション・ワーク、そしてNRIの活動との間に相乗効果をもたらすことは、NRIの活動の認知度と影響力を高めるための特別な機会となる。
- オミクロン株により多くのハイレベルな参加者が直接IGFに参加しなかった。
- ほとんどのセッションの主催者は、パネルのジェンダーバランスをとる努力をしていた。IGFのアジェンダにおいて、女性の割合が圧倒的に少ないセッションがないように、この点での努力を継続する必要がある。



Zoom画面で垣間見る現地の様子